

TQC実践事例

【第13回 全国都市改善改革実践事例発表会 燕市発表事例】

テーマ	データは嘘をつかない -佃品質×燕品質-	年度	平成30年度
------------	-------------------------	-----------	--------

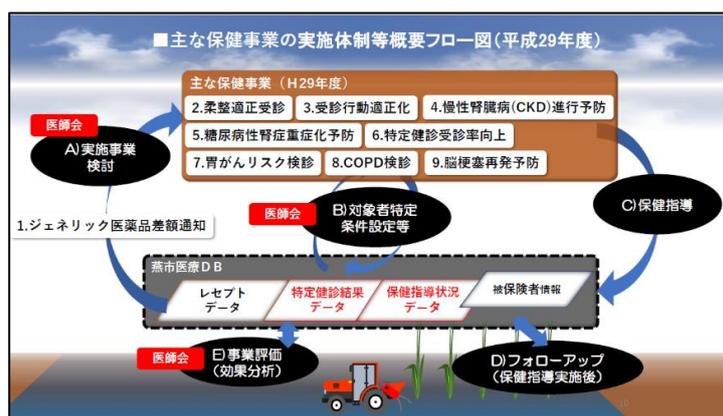
発表概要

燕市国民健康保険事業は、より効率的・効果的な運営を目指し、独自のデータベースと分析に基づいた保健事業を進めています。

超高齢化社会や医療技術の高度化等で医療費が増加する厳しい財政運営の中においても「データは嘘をつかない」という信念で進めてきた、医療費適正化に向けた取組とその成果を発表しました。

改善内容・成果等

医師会等との連携体制で、燕市医療データベースの分析を踏まえた各種事業を実践し、効率的・効果的に国民健康保険事業を運営しています。



【主な保健事業】

- 1 **県内初** ジェネリック医薬品差額通知事業(※1)を開始【平成24年度】
 ※1. 後発医薬品を利用した場合の薬代軽減額が記載された通知
 [成果]普及率78%(H31.1現在)医療費ベース削減効果額累計・約4億円

- 2 **県内初** 胃がんリスク検診(※2)を開始【平成26年度】
 ※2. 血液検査により将来の胃がんリスクを判定する検査
 [成果]
 ・5年間で30人に対しがんを発見(発見率1.14%)し、胃がんの医療費を改善 H27:88百万円⇒H28:64百万円

- 3 **県内初** 残薬対策として節薬バック(※3)の配布を開始【平成30年度】
 ※3. 飲み忘れた薬や重複した薬をかかりつけ薬局に持参してもらうことで処方調整に結び付ける専用バック